第２期　沼津市学校教育におけるＩＣＴ活用方針

～　N-GIGA　Ver.2.0　～

令和７年４月

沼津市教育委員会

沼津市学校教育におけるＩＣＴ活用方針（N-GIGA）

１　策定目的

国のＧＩＧＡスクール構想に基づき本市が導入した、「１人１台ＰＣ端末」をはじめとする小中学校のＩＣＴ環境を、学校教育の「あらゆる場面」で活用することで、全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学び、協働的な学び及び学びの継続を実現し、学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力、問題発見・解決能力等を育成することにより、「Society5.0 時代」や先行き不透明な時代を生きる中で様々な課題に柔軟に対応できる人づくりを目指す。

２　情報活用能力について

学習指導要領の総則の中では、情報活用能力について次のように示しています。

各学校においては，児童（※中学校及び高等学校の学習指導要領では「生徒」）の発達の段階を考慮し，言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む。），問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう，各教科等の特質を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。　（「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」P.48 より）

情報活用能力は，世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して，問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。　（「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」P.50 より）

このことから、情報活用能力は言語能力や問題発見・解決能力と共に「学習の基盤となる資質・能力」であり、「教科横断的な視点」で育成される必要がある、ということがわかります。そして、その力は必ずしもコンピュータ（パソコン等）を使った内容に限ったものではありません。

例えば、総合的な学習で、自分達の地域・校区について調べ、問いを解決するために、地域の人たちにインタビューやアンケートをして情報収集をしたり、集めた情報を整理・分析して、資料としてまとめ、だれかに発表することができることも、情報活用能力の一部だと言えると言えます。

３　方針の対象期間

ＧＩＧＡ第１期として児童生徒の１人１台ＰＣ端末の運用を開始した令和２年度から令和６年度を【Ver.1.0】、本改訂による「（N-GIGA）【Ver.2.0】」は、同端末の更新が始まりＧＩＧＡ第２期の１人１台ＰＣ端末の運用が予定される令和７年度から令和１１年度までとする。

４　活用するＩＣＴ機器・環境

●**児童生徒用ＰＣ端末**　（Chromebook：マルチタッチ対応コンバーチブル型）：**１人１台**

●**教職員の授業用ＰＣ端末**（児童生徒用端末と同一品）：**１人１台**

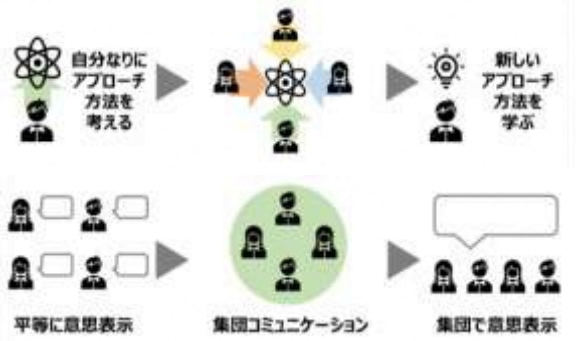
●**大型提示装置及びワイヤレスディスプレイアダプタ（Chromecast）：小中学校の通常学級及び特別支援学級の普通教室に１台、理科室や音楽室などの一部の特別教室に１台**

●学校ごとに高速インターネット環境を整備、直接クラウド型グループウェアサービス（Google Workspace for Education）に接続。

●児童生徒・教職員一人一人にアカウントを配布。

５－１　本市の目指す「ＩＣＴを活用した学び」

●全ての児童生徒の可能性を引き出し、Society5.0 時代において様々な社会の変化にも前向きに対応できる人づくりのための**「個別最適な学び」「協働的な学び」「学びの継続」の実現**

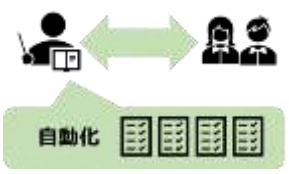
「個別最適な学び」の実現	・自主自律を支える探究的な学び ・児童生徒一人一人の学習の進捗に応じた学び
「協働的な学び」の実現	・共同作業の中で様々なアプローチを学ぶ ・他者の意見を聞き、自らの意見を伝える経験を得る 
「学びの継続」の実現	・新たな感染症や災害の発生等の緊急時にも、児童生徒や家庭と学校をつなぎ、緊急時にも学びを止めない ・不登校や長期欠席者等と学校をつなぎ、学びの保障 ・つながることによる安心感の醸成と学習意欲の維持

●本市の様々な地域資源やテーマ（地球環境、ＳＤＧｓ、ぬまづの宝、文化財、地域人材、沼津市の事業等）を「ソース」に、学校教育のあらゆる場面（授業、フィールドワーク、休み時間、特別活動等）でＩＣＴを「ツール」として活用し、その成果をとりまとめ、共有したり、外部に発表したりすることによる「質の高い授業・特別活動等」の実現と児童生徒の「自己肯定感」の育成

●ＩＣＴの活用による、地域の人材、他の学校、不登校・長期欠席児童生徒等と**「つながる学び」「地域総がかりの教育」**の実現

●ＩＣＴ活用の前提としての**「情報モラル・リテラシー教育」**の充実

●ＩＣＴを活用した教育の実践による**「教職員の負担軽減」**（課題の作成・回収、小テストの実施・自動採点等）を通じた教職員の**「児童生徒に向き合う時間の確保」**



5－2　具体的な「学び」の姿「ＩＣＴのある毎日」

＜一日の流れ＞（例）

～Google Workspace for Education の活用～

登校前　欠席等連絡　：●家からフォームで連絡（即時集計・即時把握）

登校後　健康観察　：●登校後フォームで健康観察（即時集計・即時把握）

授業中　教材の配布・提示：●「Classroom」「大型提示装置」による教材の円滑な配布・効果的な提示

自律的な学び　：●「ブラウザ」「カメラ」「教科書二次元コード読み取り」使用

（個別最適な学び）　●「考え、調べ、まとめ、創り、伝え、追究する」

外部とのつながり：●「Meet」使用

●様々な交流・連携（他校、海外・大学等）

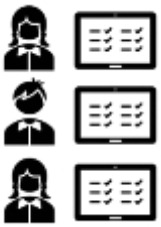
●人材活用（保護者・地域人材）

●不登校・長期欠席等の児童生徒へ学習指導

協働的な学び　：●データの共有・共同編集

●大型提示装置による共有・発表・気づき

●遠隔合同学習



振り返り　：●フォームで小テスト

●課題の提出・成果の共有・作品の公開

●評価

下校時　ランドセルへ収納　※端末は原則「持ち帰り」とするが、児童生徒の発達段階に応じて充電保管庫へ収納

充電保管庫へ収納

※小学校・中学校における「1 日のモデルケース」は5・6ページに記載

＜授業イメージ＞（例）

問題発見　**「課題をつかみ、自ら問いを持つ」**

- 課題や資料を提示する【大型提示装置・フォーム等】
- 課題や資料を配布する【Classroom】

個人追究　**「自ら追究し、発見した問題に対する自分の考えをつくる」**

- 課題に対する自分の考えをまとめる【GWS（Google Work Space）】
- 資料へ考えを書き込む【GWS】
- 必要に応じて Web の資料や撮影した写真等を取り込む【検索・カメラ】

練り合い　**「共同編集や情報共有・交流などにより、学びを広げ深める」**

- 考えを共有し交流し合う【端末を見せ合う・GWS】
- 共同編集による練り合いや作品の協働制作等、協働的な学びを進める【GWS】
- 友達の考えと比較したり再考したりしまとめる【FigJam・Canva・スライド等】

理解定着・振り返り　**「学習内容の理解定着と、学びに向かう自分の姿を振り返る」**

- 発表し合い、内容の確認を行う【大型提示装置・スライド等】
- 最終的な自分の考えやまとめ、成果物などを提出する【Classroom】
- 小テストや自己評価、振り返りを行う【フォーム・Classroom】

☆１日のモデルケース（例えば小学４年生）

登校前　「熱が出ました」
●家から保護者がスマートフォン･PC 等からフォームで学校に欠席を連絡する。

登校後

・朝の健康観察　●端末をランドセルや充電保管庫から取り出し、自分の席で PC 端末で自分のアカウントにログインする。フォームで自ら朝の体温・健康状態を報告する。

↓

・朝会　●不登校・長期欠席等の児童も「Meet」で一緒に参加した朝会を実施する。

↓

・国語の授業　●文章を読んで「要点」と考えた箇所を全員で共同編集ソフト上に書き出し、他の児童の答えと比較しながら多様な考えに触れながら「自ら気づく」。

↓

・算数の授業　●教科書の二次元コードや、デジタル教科書のリンクから Web サイトに接続し、「平行な直線の書き方」等を動画で学習し、理解を深める。
●フォームで小テストを行い、終了後直ちに行われる自動採点の結果により、必要に応じて再テストを受け、内容を確実に理解する。

↓

・体育の授業　●体育館で「跳び箱」の跳び方を友達同士で動画撮影し、跳び方の改善点の指摘を担任から受けたり、自ら気づいたりすることで、跳び方を修正する。

↓

・休み時間　●PC 端末で、授業中に関心を持った内容を自ら検索し、情報を収集したり自律的に知識を深めたりする。

↓

・総合的な学習の時間　～「〇〇沼の環境保護」をテーマにした総合的な学習の時間において～
●国内外の環境保護の動きについてインターネットで検索する。
●校外へフィールドワークに行き、現地で見つけた動植物をカメラ撮影する。学校に帰ってからインターネット等でその種類等を検索する。
●グループに分かれ、共同編集ソフトで動植物の撮影ポイント、名称、特徴等を記録する。過去の記録等と比較し、増減の状況をグラフ化する。
●グループごと大型提示装置を使って「他にない特徴」「保護の必要性・方法」等、専門家の協力を得ながら問題解決を進めたり、遠隔学習を取り入れ対話したりしながら、「考え、まとめた結果」を発表する。

↓

下校前

・帰りの会　●端末をランドセル又は充電保管庫（「持ち帰り」を原則）へ収納
※必要に応じて持ち帰り（緊急時の家庭学習も含む）

☆１日のモデルケース（例えば中学２年生）

登校前　「通院のため、１時間目の途中に登校します。」

●家から保護者がスマートフォン・PC 端末等からフォームで学校に「遅刻」を連絡する。（即時集計・即時把握）

登校後

・朝の健康観察　●端末をカバンや充電保管庫から取り出し、自分の席で PC 端末で自分のアカウントにログインする。フォームで自ら朝の体温・健康状態を報告する。

↓

・朝会　●不登校・長期欠席等の生徒も「Meet」で一緒に参加した朝会を実施する。

↓

・社会の授業　●インターネットで得たある地域の異なる情報（地形の特徴、交通網、人口、文化や歴史等）を比較、関連付けて読み取ったり、異なる地域の共通する情報を比較したりして、関連付けて根拠として示しながらレポートを作成する。

↓

・理科の授業　●金属を電解質水溶液に入れる実験を行い、金属が水溶液に溶けたり、水溶液中の金属イオンが金属として出てきたりする様子を動画や写真で記録する。それらをグループで確認しながら、これまでの化学変化に関する学習の過程を踏まえて、イオンのモデルと関連付けて考えたり、得られた結果を表にまとめたりして分析する。

↓

・音楽の授業　●クラス全員で同時に楽曲を鑑賞した後、生徒一人一人が必要に応じて PC 端末により音楽を再生したり停止させたり、繰り返したりすることで、着目した音楽の特徴を他者と共有し、学習を深める。

↓

・昼休み　●充実した人生や働くことの楽しさと価値、学ぶことと職業など、現在の自分と将来とをつなぐものに興味を持ったことから、多様な大人の体験談や働くことの意義などを収集し、自分なりの考えをまとめるために ICT を活用する。

↓

・総合の授業　●班で調べているテーマに必要な情報をインターネットや図書室で調べ、集めた情報を Canva に集約し、情報の取捨選択を行う。

↓

・英語の授業　●生徒が発表する様子を録画後、生徒自身がその様子を再生して確認し、自身の発話を客観的に振り返り、次の学習における見通しの確認や目標を設定する。

●正しい発音を身に付けるために、音声入力機能を用いて自身の発音が正しいスペルに変換されるかを繰り返し試す。

↓

下校前

・帰りの会　●定期テスト前、家庭学習計画に基づいた学習の進捗状況をデータとして記録したり、修正したりする。

●係活動や委員会活動において、学級全体への「お知らせ」を Classroom を使い配信する。

＜学習場面に応じたICT活用の例＞

調査活動	協働での意見整理	大型提示装置に映し出す
・インターネットやデジタル教材を用いて、必要な情報を収集する。 ・観察や実験の記録、器械運動の試技、楽器の演奏、校外学習における取材メモ等を、カメラを使って撮影する。 ・取材時、質問や回答をドキュメントの音声入力機能で文字起こしし、インタビューに専念する。 ・NHK for Schoolの番組や動画クリップを視聴する。	・共有機能や共同編集機能により、複数の情報や意見・考えを共有し、学習課題に対する意見整理を円滑に進めるとともに、話合いを通じて思考を深める。 ・新聞づくりやレポート作成では、作業や内容をグループで分業し、同時編集機能により、協働制作を進める。	・動画・アニメーション・音声等を含む教材や資料を提示することにより、興味・関心の喚起につなげるとともに、学習活動を焦点化し、学習課題への理解を深める。 ・手元の動きなどを大きく映し出す。（演示や実物） ・児童生徒が、自分の考え方や制作したものを大きく映し出して発表することで、互いの考えを視覚的に共有し、議論を深める。
学校の壁を越えた学習	**プログラミング教育**	**授業以外の活用**
・災害や感染症などによる臨時休業時や、不登校・長期欠席児童生徒対応で、Meetを用いたオンライン授業やサテライト授業を行う。 ・MeetやZoomなどを使って、他校や海外の学校、外部の専門家などとつなぐ。	・各教科の指導内容の中で、プログラミング的な思考の育成が有効な単元見出し、単元構想の工夫や、教科書記載のプログラミングツール、Webアプリ（Scratch やViscuit、、Hour of Code-プログル、MESHなど）を利用して、プログラミング的思考を育てる。	・欠席や遅刻等の連絡 ・朝の健康観察（セルフチェック） ・たよりの配信（ペーパーレス化） ・タイピング練習 ・オンラインOO（参観、保護者会、教育相談、進路相談など） ・部活動の連絡 ・放送による朝会や一斉連絡

※授業形態、学習場面ごとの指導スキル、活用ツール（例）は、P１２「６　授業形態・学習場面に応じた指導スキルと活用ツール」を参照する。

※地域資源等を活用した学習をモデルにした活用フロー（参考）は次ページ参照する。

５－３　情報活用能力の段階的育成の例

小学校の低・中・高学年、中学校のそれぞれにおいて取得・育成すべき情報活用能力の内容を以下のとおり例示する。これらを参考に各小中学校で系統的に、段階的に情報活用能力の育成を図る。

	課題の発見・見通し	収集	整理・分析	表現・発信	振り返り
１・２年生	日常生活で経験したり感じたり考えたりしたことや想像したことから問題を設定する。	身近なところから様々な情報を収集することができる。	簡単な絵や図、表やグラフを使って情報を整理できる。 1～2点の情報から、分かったことをまとめることができる。 情報を見て共通点、違いや順序などを捉えることができる。	相手に伝わるような発表ができる。	学び（情報活用の過程）を振り返り、自分の学びのよさを見つけることができる。

	課題の発見・見通し	収集	整理・分析	表現・発信	振り返り
3・4年生	目的や意図に応じて、日常生活で経験したり感じたり考えたりしたことや差異点や共通点をもとに問題を発見し、解決の見通しや予想をもつことができる。	情報を集める基本的な方法を知り、実践することができる。	表やグラフを使って情報を整理できる。 2～3 点の情報から、傾向や違いを捉えることができる。 事実と意見、全体と部分などを分けながら情報を整理できる。	相手や目的に合わせた発表ができる。	学び(情報活用の過程)を振り返り、改善点を見いだすことができる。
5・6年生	目的や意図に応じて、日常生活で経験したり感じたり考えたりしたことや差異点や共通点をもとに問題を発見をし、解決の見通しや予想・仮説をもつことができる。	調査や実験・観察を行い情報を集めることができる。	目的にあわせて、表やグラフを使って情報を整理できる。 複数の情報から、傾向や違いを捉えることができる。 集めた情報を分析、考察して、新しくアイデアを生み出すことができる。	相手や目的にあわせて聞き手とのコミュニケーションをとりながら複数のツールを組みあわせて表現できる。	学び(情報活用の過程)を振り返り、考えを再構成し、自分の考えをより深めることができる。
中学生	目的や意図に応じて、日常生活で経験したり感じたり考えたりしたことや差異点や共通点をもとに問題を発見をし、自分なりの解決の方向性を決め、学習の見通しを立てることができる。	調査を設計し、情報を効果的に収集・検証できる。	目的にあわせて、表やグラフを使って情報を統計的に整理できる。 目的にあわせて集めた情報から、傾向や変化を捉えることができる。 目的にあわせて集めた情報を多角的に考察し、新しいアイデアを生み出すことができる。	目的にあわせて集めた情報の必要な部分を統合して表現できる。	学び(情報活用の過程)を振り返り、観点を決めて評価し、効果を見いだすことができる。
高校生	問題を発見し、所定の条件を踏まえて情報活用の効果的な計画を立案できる。	統計的な調査を設計し、情報を効果的に収集・検証できる。	目的に応じて表やグラフを用いて情報を統計的に整理できる。 目的に応じて収集した資料から、傾向や変化を適切に捉えられる。 目的に応じて収集した資料を多角的に考察し、新たな意味を見いだすことができる。	相手や目的に応じて、メディアの特性を理解して適切に表現できる。	学び(情報活用の過程)を振り返り、観点を決めて評価し、修正したり次の活動に生かしたりすることができる。

＜リアルとデジタルを組み合わせた「沼津市らしい教育」の実現＞

☆（参考）総合的な学習の時間・クラブ活動等における活用フロー（例えば総合的な学習の時間）

テーマ　「様々な地域資源や場面からテーマを決めます。」

●自然環境、SDGｓ、ぬまづの宝100選、文化財、人材、部活　etc…

・テーマ選択　●授業・クラブ活動等で、
テーマを「身近な〇〇の自然を守るために」と選択する。

学習

【インプット】　●学校の近くの〇〇の自然はどんな特徴か調べてみる。

・机で調べる（デジタル）　インターネット、市立図書館・ぬまづ電子図書館、市HPの素材データ

探求心の育成、自立的学び

↓

・現地で調べる（リアル）　●現地で詳しく調べる。
地域フィールドワーク、写真・動画の撮影、地域人材へのインタビュー
端末に備わっているカメラ

探求心の育成、自立的学び

↓

・整理・分析する（デジタル・リアル）　●インターネットで調べたことや、現地で詳しく調べたことを整理する。
「書いて」「貼って」「比較・整理、分析」して資料作成
文章作成・表計算ツール、データ保存（クラウド）

自己肯定感、自立的学び

↓

・まとめる（デジタル・リアル）　●みんなで意見をまとめる。
〇〇の支援の特徴は？　〇〇の自然を守るために何ができる？
「私は□□の理由で〇〇と思う」　「私は☆☆の理由で△△と思う」
⇒「グループの意見は〇〇です。」

協働的学び、聞き・伝える力の育成

※advance

・地域・海外の経験者や専門家の意見を取り入れる。
リモート会議ツール

地域とともにある学び、つながる学び

・長期欠席者も参加する。
リモート会議ツール

つながる学び

↓

発表　●まとめた成果を地域・世界に発表する。
動画編集ツール、ホームページ作成ツール

【アウトプット】

聞き・伝える力の育成、自己肯定感

・発表する

５－４　情報モラル・リテラシー教育の充実

１人１台端末の活用が進むにつれて、学校内外とのやりとりが一層進み、その中で、本人又は保護者の同意がない状態で氏名や写真等の個人情報が外部に提供されたり、著作権を適切に配慮されずにコンテンツが使用されたりすることが懸念される。

さらに、手軽に情報発信ができること等により、第三者を傷つける発言を掲載したり、それにより自らが傷ついたりすることも懸念される。

ＩＣＴの活用は、児童生徒・教職員が情報モラル・リテラシーに対する十分な知識を持つことが前提であるため、あらゆる活用の場面において、こうした配慮の必要性についての指導の徹底を図っていくことが不可欠である。

このことから、こうした問題を未然に防ぐため、次の対策を講ずる。

１　個人情報保護の強化：

児童生徒に対して個人情報の取扱いに関する具体的な事例を交えた教育を行うとともに、保護者も一緒になって取り組める教材を提供する等、個人情報保護の強化の徹底を図る。

２　著作権教育の徹底：

児童生徒が作品の作成時における著作権に関する基本的な知識を教え、適切な利用方法を指導する。具体的な事例研究や演習を通じて、実際の場面で適用できるようにする。

３　オンラインコミュニケーションのマナー教育：

児童生徒が他者を傷つける発言をしないよう、インターネット上のコミュニケーションのマナーやルール等について指導する。これにより、誹謗中傷やトラブルを未然に防ぐことに努める。

４　失敗から学ぶ機会の提供：

ＩＣＴを活用した授業や学活等において、児童生徒が経験する様々な失敗も指導のチャンスと捉え、学校外、さらには将来の社会生活において同じ失敗を繰り返さないよう、適切な指導を実施する。

５　セキュリティポリシーの徹底：

教職員のＩＣＴ活用においては、セキュリティポリシーに沿った取り組みを徹底し、情報漏えいや個人情報の扱いに十分留意することとする。定期的な研修や更新を行い、最新のセキュリティ対策を共有する。

これらの対策を通じて、児童生徒・教職員が情報モラル・リテラシーに対する十分な知識を持ち、安全かつ効果的にＩＣＴを活用できる環境を整えていく。

５－５　地域資源・人材に対するＩＣＴを活用した「理解の醸成」「地域総がかりの教育」の実践

本市においては、豊かで特色ある地域資源が各校区に存在している。そうした地域資源や人材について、児童生徒が授業等の様々な学校生活において、積極的にＩＣＴを活用した情報収集や理解の深め合い、市内外への情報発信をすることで、**郷土に対する愛着の醸成**を図る。

また、**地域や行政が提供する様々な素材・人材を活用した「地域総がかりの教育」**を、ＩＣＴを活用する場面においても実践する。

５－６　緊急時の「学びを止めない」ための取組の確保

新しい感染症等による学校の臨時休業等においても「学びを止めない」ため、いつでも自宅等で学習できる**「オンライン」による課題の準備等**に取り組む。また、緊急時、スムーズに学びを切り換えるためにも、平時からオンライン授業やオンライン〇〇の実施、ＰＣ端末の家庭への持ち帰りを実施していく。

５－７　特別な配慮を必要とする児童生徒の学校教育へのＩＣＴの活用

学習障害や視覚障害のある児童生徒にとって、ＩＣＴの活用は、これまで以上に高い学習の効果を期待することができる。

また、感染症等による学校の臨時休業等においては、基礎疾患等を持つ特別支援学級の児童生徒が、リモートで通常学級や他校の特別支援学級等とつながることや、通級指導教室に通う児童生徒がリモートで通級先の学校とつながることで、感染予防等に配慮した教育活動が可能となる。

こうした**特別な配慮を必要とする児童生徒**に対する学校教育においても、ＩＣＴの積極的な活用を図る。

５－８　生成ＡＩの活用について

生成ＡＩは社会にイノベーションを引き起こす力を持ち、幅広く生活や教育の質を向上させる可能性を秘めていることから、学習活動や教職員の校務における生成ＡＩの活用を推進する。

一方、生成 AI の回答には誤りを含む可能性があること、自分の考えを持たない状態で安易に利用し生成 AI に全てを委ねる危険性があること、個人情報やプライバシーに関する情報・機密情報を入力しない等の注意する点も多くあることから、文部科学省が定めた「初等中等教育段階における生成ＡＩの利活用に関するガイドライン」や「沼津市教育委員会生成ＡＩ利活用ガイドライン」を踏まえ活用を図る。

【生成ＡＩ活用例】

児童生徒の観点から

●学習支援：

生成ＡＩを活用した自動要約や翻訳機能を使い、学習教材の理解を深める。

個別学習支援として、生成ＡＩを使い復習問題や演習問題を生成し、自主的な学習を促す。

●創造的な活動：

作文や詩の作成、音楽や映像制作において、ＡＩが提供するアイディア等を活用する。

教職員の観点から

●授業準備：

教材作成の支援として、生成ＡＩを使いスライドやワークシートを自動生成する。

授業計画の立案や評価基準の策定において、ＡＩを活用して効率的に進める。

５－９　宿題や副教材へのＩＣＴの活用

児童生徒に宿題を課す場合は、AI ドリル等を活用し、個々の習得状況に対応した内容を提供するなどの判断を適宜行う。また、小テストやワーク（問題集）などの副教材についても、個別最適な学びが実現できるようにデジタル教材などの利用を学校長との協議の元で行う。

なお、デジタル教材の利用、推進については、導入前に保護者や児童生徒への説明も十分に行うよう配慮する。

6　授業形態・学習場面に応じた指導スキルと活用ツール

授業形態や学習場面に応じ、求められる指導スキルを以下のとおり示すとともに、活用が想定されるツール（例）を示す。

授業形態	学習場面	指導スキル	活用ツール（例）
一斉学習	教材の提示 教材配布	画像や音声、動画などを活用し、大きく提示しながら説明している。また、適切な教材や資料を配布している。	大型提示装置・Chromecast Classroom
個別学習	個に応じた学習	ドリルやデジタル教材、カメラ等を用いて一人一人の特性や習熟の程度に合わせ個に応じた学習支援をしている。	AI ドリル カメラ機能
	調査活動	Web 検索やデジタル教材を活用して必要な情報を収集したり、写真や動画を撮影して記録したりする指導をしている。	Web 検索・カメラ機能 音声入力機能・Meet
	思考を深める学習	デジタル教材を活用して思考を深め、自分なりに理解する機会を確保している。	二次元コード 各種コンテンツ
	表現・制作	文字や写真、動画などを用い、資料や作品を制作できるようにしている。	ドキュメント・スライド・Canva サイト・AdobeExpress・ YouTube 等
	家庭学習	理解を深める教材の準備をし、家庭での調査活動をもとに次時に活用するため、端末やアプリを活用させている。	Classroom AI ドリル
協働学習	発表や話合い	調べたことやまとめを拡大表示し、グループや学級全体で発表や話合いを進めている。	大型提示装置・Chromecast スライド・サイト・Canva AdobeExpress
	協働での意見整理	端末やアプリの機能を用い、意見を交流し合う中で、複数の意見や考えを議論し整理できるようにしている。	FigJam・スライド・Canva スプレッドシート・Classroom
	協働制作	グループでの分担や協働による作品の制作を行う機会を確保している。	スライド・ドキュメント・Canva スプレッドシート・FigJam
	学校の壁を越えた学習	専門家やゲストティーチャー、遠隔地や海外の学校等をオンラインでつなげ、交流学習の可能性を広げている。	大型提示装置・Chromecast Meet・Zoom

※　学習場面は、「教育の情報化に関する手引-追補版-（令和2年6月　文部科学省）」の分類

※　ICT の活用シーンと使用アプリ・ツール等の詳細は、巻末を参照。

7　「行動目標」

※本目標は、実際の進捗状況により必要に応じて見直しを行う。

6年目（R7）	
行動目標	・全ての教員が、児童生徒がＩＣＴを効果的に選択可能な授業づくりをしている。 ・全ての学校において、情報モラルを指導・育成する取組が行われている。 ・全ての学校において、授業で使用したプリントや資料等がデータ化され、家庭等からもアクセスができ、それらを見直したり、利用したりして、個に応じた学びや振り返りができる。
7・8年目（R8・9）	
行動目標	・全ての教員が、児童生徒がＩＣＴを効果的に選択可能な授業づくりをしている。 ・全ての学校において、情報モラルを指導・育成する取組が行われている。 ・全ての学校において、授業で使用したプリントや資料等がデータ化され、家庭等からもアクセスができ、それらを見直したり、利用したりして、個に応じた学びや振り返りができる。 ・全ての教員が、生成 AI の活用について、校務や授業づくりの活用を考えている。
9・10年目（R10・11）	
行動目標	・全ての教員が、児童生徒がＩＣＴを効果的に選択可能な授業づくりをしている。 ・全ての学校において、情報モラルを指導・育成する取組が行われている。 ・全ての学校において、授業で使用したプリントや資料等がデータ化され、家庭等からもアクセスができ、それらを見直したり、利用したりして、個に応じた学びや振り返りができる。 ・全ての教職員が、生成 AI の活用について、校務や授業づくりの活用を考えて、実践している。

8　成果指標

ＩＣＴ活用教育を充実させるため、年度ごとに学校・児童生徒を対象に以下のアンケート調査を行う。

（成果目標）

「教職員は児童生徒がＩＣＴを日常的に活用するような授業づくりをしている」と考える児童生徒の割合」（令和１１年度　９０%以上）

9　活用推進に向けた支援体制の整備

ICT の活用を充実させる上で、各学校での取組の成果を参照し、自らの学校でも実践できるよう、取組状況の共有を図ることが必要である。

そのため、個々の取組状況を定期的に N-GIGA Links 集、ヌマクロー（共有ファイル）に掲載し、どの学校でも閲覧できるよう、定期的な掲載を各学校に求める仕組づくりを図る。

さらに全ての教職員・学校において、高いレベルでの ICT 活用が図られ、児童生徒の学力の保障につながるよう、教職員に対する研修の充実を図るとともに、組織的な支援体制を確保していく。

加えて、ＩＣＴに高い見識を有する地域人材、企業、教育機関等との連携により、ＩＣＴを用いた授業内容の充実を図る。

10　教職員のＩＣＴ活用指導力向上に向けた研修用資料（令和７年２月１４日現在）

⑴　Google for Education に関するe-learning

①　はじめての Google for Education（全教職員対象の悉皆プログラム）

https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+pt060+2020_09/about

②　Google for Education　ＩＣＴ活用に関するリンク集

（GWS やClassroom の使い方や、Google for Education の活用事例などの紹介動画）

http://services.google.com/fh/files/misc/gfe_ict_link.pdf

⑵　各教科等の指導におけるＩＣＴの効果的な活用に関する解説動画

（「主体的・対話的で深い学び」の観点から授業改善を行うに当たり参考となる解説動画）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00941.html

⑶　各教科等の指導におけるICT の効果的な活用に関する参考資料

（「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うに当たり参考となる参考資料）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html

⑷　StuDX Style（スタディーエックス　スタイル）

（１人１台端末の活用方法に関する優良事例や本格始動に向けた対応事例を紹介）【文部科学省特設サイト】

https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/index.html#2

⑸　１人１台環境導入直後にもすぐ使える　Google Workspace for Education 授業・校務素材集

（小学校教職員向け素材集であるが、校務素材は学校種別問わず活用可能）

https://sites.google.com/view/1-1-g-suite-for-education

⑹　その他参考資料

①　教育の情報化に関する手引

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

②　とっとりＩＣＴ活用ハンドブック（鳥取県教育委員会）

https://www.pref.tottori.lg.jp/297526.htm

③　沼津市 GIGA スクール構想（N-GIGA）紹介動画【広報ぬまづ令和４年２月１日号連動企画】

https://www.youtube.com/watch?v=75v2RcyEV_c&t=41s

（資料）ＩＣＴの活用シーンと使用アプリ・ツール等　　（R7.2月時点の例）

なにを	いつ	どこで	だれが	どのように ※使用アプリ・サービス・コンテンツ等	方法・備考・その他
健康セルフチェック	毎朝始業前・朝の会	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム	始業時までに、各自回答。毎朝端末を開きログインする習慣も付く
出欠連絡	朝（　）時まで	各家庭	保護者	フォーム	専用フォームで欠席・遅刻・早退等の連絡をする（保護者スマホ等から）
プールカード・持久走健康観察カード	登校前	各家庭	児童生徒・保護者	フォーム・スプレッドシート	専用フォームやスプレッドシートで体温や食事、排便、体調等の連絡をする（保護者スマホ等から）
予定連絡（連絡帳の廃止）	前日	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	スプレッドシート	予定帳に翌日の予定を書かず、教職員の予定帳を共有
日報・３行日記など	下校前or帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・ドキュメント・Classroom	
音読カード	帰宅後	各家庭	児童生徒・保護者	フォーム・スプレッドシート	
教科書等の資料（二次元コード利用）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	二次元コードリーダー・ブラウザ	
デジタル教科書・デジタル教材（各教科）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	デジタル教科書	
資料提示（実物投影）	随時	教室等	児童生徒・教職員	カメラ	
資料提示（オンライン　コンテンツ等）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	ブラウザ・NHK for School・YouTube等の各種コンテンツ	
協働学習・共同編集等（各教科・総合等）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	FigJam・ドキュメント・スプレッドシート・スライド・Canva Adobe Express	意見・回答の即時共有を通した効果的な協働学習
調べ学習	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	ブラウザ・各種オンラインコンテンツ	各自の視点で情報を収集して整理、分析し、即時に周りと共有して議論
インタビュー	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	ドキュメント（音声入力）	インタビューに専念し、後で修正する
英語のスピーキングチェック	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	ドキュメント（音声入力）	英語の発音が正しいか確認する
リスニングテスト	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・Classroom	英語のリスニングテストを実施できる
OCR	授業・帰宅後	教室等・各家庭	教職員	ドキュメント（手書きワークシートをOCRでテキスト化）	画像をドキュメントで開くと手書き文字がテキストデータに変換される
写真撮影・ビデオ撮影	随時	教室等・体育館・各家庭	児童生徒・教職員	カメラ（静止画・動画）	
写真編集	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Canva Adobe Express	
動画編集	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Canva Adobe Express	

なにを	いつ	どこで	だれが	どのように ※使用アプリ・サービス・コンテンツ等	方法・備考・その他
意見の共有（一覧表示）・机間支援（巡視）	授業	教室等	児童生徒・教職員	スライド等 Adobe Express	児童生徒：スライドの共同編集、教職員：スライドを一覧表示
発表	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	スライド・Canva サイト・ Adobe Express・ YouTube 等	
レポート作成（各教科・総合等）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	ドキュメント・ スプレッドシート・ スライド・Canva サイト・ Adobe Express	探索機能、音声入力などの有効活用
プレゼン（各教科・総合等）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	スライド・Canva Adobe Express・ サイト	
プログラミング（各教科）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	Scratch・ MESH・ Hour of Code 等	
情報モラル	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員・保護者	広教 Net モラル	ID：*****　PW：*****
学習支援（LMS（Learning Management System：学習管理システム）、課題の配布回収）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Classroom・ ドライブ WinBird	
質問・個別支援	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Meet・ Classroom	
音声入力	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	ドキュメント・ ブラウザ	
地図の活用（社会科・生活科等）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	マップ・ マイマップ	
副読本「ぬまづ」（社会科）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	PDF リーダー L-Gate	改定に合わせて電子化を検討
副読本「言語科」	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	みらいスクールプラットフォーム L-Gate	令和7年度から電子化（デジタル教科書のプラットフォーム）
低学年対応（ふりがな）	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	拡張機能 Chrome ウェブストア Furigana Extension	市内で一括してセットアップ
クラスの諸連絡	授業・帰宅後・随時	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Classroom	
各種たより（学校便り・学年便り・保健便り等）	随時	学校⇒ 各家庭（児童生徒）	教職員	PDF リーダー・ Gmail・ Classroom・ ドライブ	デジタル化、ペーパーレス化（メール配信 or ドライブで共有リンクを送付など）　紙媒体希望者の把握と配布も必要
お知らせ（献立予定表・下校時刻等）	随時	学校⇒ 各家庭（児童生徒）	教職員	PDF リーダー・ Gmail・ Classroom・ ドライブ	デジタル化、ペーパーレス化（メール配信 or ドライブで共有リンクを送付など）　紙媒体希望者の把握と配布も必要
意識調査・レディネス調査等	随時・授業時等	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・ Classroom	
小テスト	随時	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・ Classroom・ MEXCBT	

なにを	いつ	どこで	だれが	どのように ※使用アプリ・サービス・コンテンツ等	方法・備考・その他
CBT（Computer Based Testing：コンピュータを利用した試験）に慣れる学習	随時	教室等	児童生徒	フォーム・ドキュメント・Classroom・AIドリルのテスト・MEXCBT等	方法について要検討
ドリル学習（AIドリル）	授業・家庭学習・臨時休業時等	学校・各家庭	児童生徒・授業者・不登校・長期欠席児童生徒	導入方法・費用負担の在り方について検討	AIドリルの導入（紙より安価）導入する単位・方法等について検討
遠隔学習・遠隔協働学習・学校間交流	授業	教室等	児童生徒・他校・ゲストティーチャー等	Meet・Classroom	多様な考えに触れる機会や発表の場として他校とつなぐ。小規模校で特に有効。海外や専門家と連携した授業の実施
交流会（特活）	授業・放課後	教室等	児童生徒・中学校区やブロック内の学校	Meet・スライド・Canva	児童会生徒会の交流・児童生徒レベルでの小中連携・学校紹介など
学校保健委員会	授業	教室等・学校医	高学年児童	Meet・スライド	学校医と学校をつなぐ
オンライン社会科見学	授業（社会科）	教室等	児童生徒・受入施設等	ブラウザ・Meet等	
オンライン自然観察	授業（理科）	教室等・各家庭	児童生徒・現地の担当教職員等	ブラウザ・Earth・Map	
外国籍の児童生徒対応	随時	教室等・各家庭	児童生徒・教職員・SSS・ALT	翻訳	
不登校・長期欠席対応	随時	各家庭・青少年C・受入施設等	児童生徒・青少年教育センター・受入施設等	端末・アプリ全般	オンライン化とセット
教育相談	随時	学校内・各家庭	児童生徒・保護者	Gmail・フォーム等	随時受け付けられる体制を作る（全員に相談フォームのリンクを知らせるなど）
校内放送の代替	随時	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Meet・YouTube（Live・録画）	
部活動の連絡	随時・休日	適宜	生徒・顧問・保護者	Classroom・カレンダー	
職員の連絡	随時	適宜	教職員	Gmail・チャット	デジ職メールとの棲み分け、メール配信システムとの棲み分け等を検討
職員打合せ・職員会議・部会・校内〇〇委員会	適宜・随時	職員室・教室・研修室・会議室等	教職員	ドキュメント	ドキュメントを一斉に開き、共有・共同編集
会議・打合せ（外部）	校長会・教頭会・教科部会等・各種出張代替	適宜	教職員・ゲストティーチャー等	Meet・カレンダー	
行事等の反省（教職員）	随時	学校・各家庭	教職員	フォーム	
研修会・講話・講演	校内研修等	研修室・会議室等	教職員・児童生徒	Meet・YouTube・Gmail	
学校評価（児童生徒）	期末	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・Classroom	
学校評価（保護者）	期末	各家庭	保護者	フォーム	
学校評価（教職員）	期末	学校・各家庭	教職員	フォーム	
各種調査	随時	各家庭	保護者	フォーム・Classroom	
サテライト学習	少人数対応時等	教室等・学習室・各家庭等	児童生徒・教職員	Meet・YouTube（Live）	外付けマイクがあるとよい

なにを	いつ	どこで	だれが	どのように ※使用アプリ・サービス・コンテンツ等	方法・備考・その他
オンライン集会・朝会・始業式等	随時・臨時休業時等	教室等・校長室・各家庭	児童生徒・教職員	Meet・カレンダー・フォーム	
オンライン学活・健康観察（感染防止）	臨時休業時等	教室等・各家庭	児童生徒・授業者・不登校・長期欠席児童生徒	Meet・カレンダー・フォーム	
オンライン授業（リアルタイム）	臨時休業時等	教室等・各家庭	児童生徒・授業者・不登校・長期欠席児童生徒	Meet・カレンダー	複数台使用によるマルチアングル（教室全体・板書箇所のクローズアップ・先生の手元・先生の表情など）
オンライン授業（動画配信）	臨時休業時等	教室等・各家庭	児童生徒・授業者・不登校・長期欠席児童生徒	Classroom・YouTube・ドライブ・NHK for School	
オンライン授業（LMS、課題の配布回収）	臨時休業時等	学校・各家庭	児童生徒・授業者・不登校・長期欠席児童生徒	Classroom・YouTube・ドライブ	
オンライン授業参観	来校制限時等	教室等・各家庭	保護者等	YouTube（Live 配信）	
オンライン保護者会	来校制限時等	教室等・各家庭	保護者等	Meet	
オンライン保護者面談・進路相談	来校制限時等	教室等・各家庭	児童生徒	Meet	

第２期　沼津市学校教育におけるICT活用方針（N-GIGA Ver.2.0）

令和７年４月　沼津市教育委員会